

市内ワークショップ（主事～主査級職員） 結果の概要

日時:令和6年12月12日(木)13:30～16:30 手法:ワークショップ
 場所:東近江市市役所 301 会議室 テーマ:①「ひと」「まち」「暮らし」で東近江市を評価してみよう。
 出席者:主事～主査級職員 20名 ②今後のまちづくりや将来都市像の実現に向けた取組の方向性を考えよう。

- ◆ひと:子育て世代や子どもに着目した方向性や取組のアイデアが多く出された。
- ◆暮らし:自然とまちや住み続けることができるまちについての意見がみられた。
- ◆まち:ひとが集まるにぎわいや産業、働く場について意見が集まった。
- ◆行政経営:まちの魅力を様々な方法でPRすることについて意見が多く出された。



市内ワークショップ（次長級職員） 結果の概要

日時:令和6年12月18日(水)10:00~12:00 手法:ワークショップ
 場所:東近江市市役所 302 会議室 テーマ:①合併後の印象的な取組や施策、それらの現時点の評価
 ②「ひと」「まち」「くらし」で東近江市を評価してみよう。
 出席者:次長級職員 23 名 ②今後のまちづくりや将来都市像の実現に向けた取組の方向性を考えよう。

- ◆ひと: 若者を中心とした人口増や地域でのまちづくり活動の意見が出された。
- ◆くらし: 自然をいかした暮らし、住みたくなるまちといった意見が出された。
- ◆まち: にぎわいの進展や若者の働く場、都市基盤の充実についての意見が出された。
- ◆行政経営: DXをはじめ、財政健全化、まちのPRについての意見が出された。

	合併後の印象的な取組や施策、評価	東近江市の評価	今後のまちづくり、将来都市像	具体的な取組・アイデア等
くらし	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり協議会設立に着目した意見が多く、交付金の統合、地域の特徴をいかしたまちづくりにつながっている。 地域おこし協力隊の活動の評価の一方、市の思いと個々の能力の違いの指摘があった。 幼保一体化や小中等選択肢が多くなった点や、給食センター整備で中学校までの給食実現につながっている。 市内イベントが広く共有可能でびわこジャズ東近江やももクロ等イベントによる交流人口増の意見が目立った。 歴史資源や文化財への着目や磨き上げが進んだとの意見があった。 布引グリーンスタジアム等スポーツの拠点整備が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、市外へ流出、高齢化や出生率減、世帯分離、家族協働が減ったといった状況が共有された。 担い手不足、世代交代できていない状況でのまちづくり意識の二極化等、地域の実情が示された。 おむつ宅配便(全国に波及)の先進性が評価された。 ラチーノ学院開校による地域の活性化が評価された。 日本遺産認定により観光振興や地域愛醸成につながっているものの、PR不足との意見があった。 発祥の地が多い(とびだし、近江商人、ガリ版、木地師)。 ジャズフェス、SEA TO SUMMIT等のイベント開催で交流人口増につながったとの意見があった。 	<p>人口増、温かさ、人と地域、子育て、若い世代、女性、生涯現役、外国人、ブランド</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口増、子ども増、昼間人口増 まちの温かさが実感できるまち、人と地域がつながるまち 子育てしやすいまち、若い人・女性が住み続けたいと思うまち だれもが暮らしやすいまち 若者がチャレンジできるまち 生涯現役で暮らせるまち 外国人と共生できるまち 東近江ブランドづくり・強化 地域の一体感があるまち 	<ul style="list-style-type: none"> 市民自治への支援強化(人口減の中では総力戦) 各種団体間連携強化、自治会活動負担減、新しい自治会 保育・教育の充実とPR、自然をいかした取組充実 地域ぐるみでの子育て支援、切れ目ない子育て支援 若者の地域活動の支援 若者の流入、二・三世帯同居推進策 若者・シニアがそれぞれ楽しめるまち、施設 移住者を迎えるパッケージ型支援(住、職、経済、技術等) 多文化共生に向けた環境づくり 定住にこだわらない居住人口増 学校統廃合、子ども食堂、大学誘致 多様な居場所 地域資源のアピールポイントを抑えたPR
くらし	<ul style="list-style-type: none"> 総合医療センター整備等、地域の医療機能や体制の充実につながったとの意見が目立った。 コロナ以降生活が困窮し、独居が進んだり生活スタイルに大きな変化があった。 合併で森里川湖を有した市になり、これらをいかした取組が進んだとの意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> メディカルネットワークの立ち上げによる医療の充実についての意見があった。 自然環境の中で住み、子育てできる環境が必要との意見があった。 旧町単位ではごみ収集の方法が統一されていなかったため、ごみの分別意識低下につながっている。 太陽光発電により景観が悪化しているとの意見があった。 	<p>豊か、住みたい、森里川湖、便利、自然、安心・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> 心豊かで穏やかに暮らせるまち 住みよいまちから住みたいまちへ 住み慣れた便利なまち 住民が集うまち 森里川湖をいかしたまち、豊かなまち 自然の中でスポーツ文化に親しむまち 安心して安全に暮らせるまち 災害が少ないまち 	<ul style="list-style-type: none"> 市内で総合病院として機能 福祉のDX 再生可能エネルギー活用
まち	<ul style="list-style-type: none"> 国営の園場整備が進んだ点や地域商社東近江あぐりステーション設立の意見があった。 税制優遇等環境整備が進み企業誘致も進んでいる。 道の駅整備や、温泉、地域資源の磨き上げでの観光振興や中心市街地整備による活性化、駅前活用によるホテル整備、コストコ誘致等商業振興を評価する意見が多い。 合併により一体的なインフラ整備ができたとの意見や石樽トンネル、垣見隧道完成、黒丸SIC、蒲生SIC設置等のインパクトへの言及が多くみられた。 ちょこっとバス・タクシーの充実や近江鉄道上下分離への移行の意見があった。 マンション等住宅開発による人口増の意見があった。 合併でのし尿・ごみ処理サービスの一本化が進んだとの 	<ul style="list-style-type: none"> 農地は多いものの、高齢化や従事者の減少についての意見があった。 企業誘致数は増えたが業種の偏りや誘致規制についての意見があった。 まちづくり公社が設立され、中心市街地が活性化しつつあるが、商業が中心市街地に集中しているとの意見があった。 同友会が発足し、中小企業支援が評価された。 鈴鹿10座など、エコツーリズムで登山者等が増えた。 市街地内の道路整備が進んだ。 公共交通の利用者が増えない、細かなサービスができていない(バス・タクシー)といった意見の他、高齢者が気軽に買物できる交通が必要との意見が出された。 	<p>企業が育つ、未来農業、若者の生活圏、車を運転しない</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業が育つまち 農業と「業」にできるまち、少数農家でできる未来農業 若者の生活圏を市内で完結 大阪京都との共存(すべて完結しなくても) 車を運転しなくても暮らせるまち 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道沿線に商業機能、農村には直売所 「情報の道」をいかした企業誘致 大企業誘致による市内在住者、若者の雇用確保 田舎の活用(ワーケーション)、知識労働誘致、コワーキングスペース、データセンター ショッピングモール誘致、市内消費拡大 若手・小規模農家支援、農家所得の安定、農のDX、農のブランド化、エリアに応じた集合生産、空農地活用 近江鉄道とJRの相互乗り入れ、ダイヤ・料金見直し バス鉄道駅直結、本所・支所をつなぐ交通ネットワーク、自動運転、無料タクシー JR能登川駅東口整備 国道8号バイパス早期実現、都計道の見直し、市内縦横道路網整備 住み替え促進(山間地→中心へ)、空家活用
行政経営	<ul style="list-style-type: none"> 地域担当職員制度創設の意見が多かった他、組織の専門化、水道事務所設置(機能集約)の意見があった。 東近江版SIB、三方よし基金創設の意見があった。 公共施設が旧各地区にあり、充実している一方、市域が広く、周辺は旧町意識が残っているとの意見があった。 ふるさと寄附は増えてきたとの意見の他、マイナンバーの活用が進んでいないとの意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 東近江のイメージアップ、認知アップの評価があった。 県内有数のプロジェクト参画の政治力が有るとの意見があった。 自主財源少、地域資源の維持が大変、施設のランニングコスト等、財政の健全化に関する意見が多く出された。 DX化の他、さらなる広報戦略やPR法についての意見が出された。 旧市町意識を改革すべきとの意見があった。 	<p>DX</p> <p>DXによる地域社会の便利さ、豊かさの実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な行政運営を目指した改革 財源確保 公共施設のあり方検討(人口減対策) より秀でた広報戦略 AIの活用等DX化推進、窓口に来なくてもすむ申請システム、先端技術についていけない人も暮らせるまち